

令和 2 年 6 月 17 日現在

機関番号：34517

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2019

課題番号：15K04327

研究課題名(和文) 女子大学の存立意義とサバイバルストラテジー：日本・アメリカ・韓国の国際比較

研究課題名(英文) Significance of Women's Universities and Colleges and their Strategies to survive : Cross-national Comparison among Japan, U.S.A. and Korea

研究代表者

安東 由則 (Ando, Yoshinori)

武庫川女子大学・教育学部・教授

研究者番号：10241217

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,600,000円

研究成果の概要(和文)：日本の他、アメリカと韓国の女子大学(スミス大学、トリニティ・ワシントン大学、梨花女子大学)でのインタビュー調査と、図書館等における資料収集を実施した。インタビュー調査を通じて、女子大学の意義、女子大学として発展するための取り組み等が語られた。スミスや梨花女子では、今後の社会変化を見据え、これまで女性の進出が少なかった工学系学部を新設した。さらに、起業家教育プログラムや女性のリーダーシップ教育を積極的に取り入れ、教員や卒業生、有能な先輩女性らと協力しながら実施するなど、女性の将来を見据えた教育に取り組んでいる。収集資料からは、各国における女子大学の歴史や推移の状況をまとめた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究では、女子大学の中でも積極的な取り組み、成果を挙げているアメリカのスミス大学と韓国の梨花女子大学において、今後の社会変化を見据えた女子大学としての戦略、取り組みを提示した。今後、女性が社会に継続して社会に関わり貢献し続けるためには、新たな課題を見つけ、その解決にむけて取り組むため、他者と協力し合いながら、組織をつくりどう進めていくのかを、様々な実践を経験しながら身につけている。起業家プログラムやリーダーシッププログラムが積み重ねて実行され、発展している。女性の社会進出を見据えたこれらのプログラムは、日本の女子大学においても今後導入が進むことが予想され、そのモデルとなるものである。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this comparative study among three countries (U.S.A., South Korea, and Japan) is to clarify the significance of women's colleges and their survival strategies through on-site surveys and data collections. Through interviews with faculty, administrative staff and students at three women's colleges, the significance of women's colleges to promote the women's leadership and the strategies to foster female students' abilities for the knowledge-based society were told. Smith College and Ewha Womans University introduced the engineering major into curricula, and endeavored to promote entrepreneurship and leadership programs for female students actively in collaboration with its faculty, graduates, and other resources. Materials and data on women's colleges were collected at Congress Libraries and each college library. The history and trends of women's colleges after WW in each country were organized. The most of these study results were published as 'research report.'

研究分野：教育社会学、教育学

キーワード：女子大学 サバイバル 存立意義 国際比較 トランスジェンダー

## 1. 研究開始当初の背景

日本の女子大学は、1998年の98校を最多に以後20校減少し、2014年に78校となった。先進国でSingle-Sexの高等教育機関は著しく減少し、米国で1960年代に200校以上あった女子大学は2014年に44校程度となり、韓国では7校に過ぎない。日本においては、女子大学は現在及び今後の社会における存立意義、将来のあり方について真剣に議論し、取り組む必要があるとの認識が共有されている。今後の日本社会における女子大学の存在意義を再認識あるいは創造し、女子教育を発展させるためには、女子大学を有する先進国における女子大学の現状を把握するとともに、女子学生を中心に置いた教育・支援プログラムを積極的に推し進める女子大学の先進事例から学ぶ必要があると考えた。そうした女子大学が存在する米国と韓国の現状を把握し、モデルとなる女子大学を訪問調査することとした。

## 2. 研究の目的

本研究の目的は、女子大学がこれまで女性のために蓄積してきた教育的財産・成果を確認するとともに、今後の可能性を検討することにある。蓄積した多様な成果を集積するため、高等教育が発達し女子大学が存在する日本、米国、韓国の3カ国を対象とし、次の3点を明らかにする。(1)3カ国の女子大学に関する基礎データ、資料の収集を通して、各国において女子大学が置かれた現状を把握する。(2)積極的な学生に対する教育支援を行っている各国の女子大学にて教職員や学生へのインタビュー調査を行い、女子大学(女子教育含)の存立意義(女子大学としての価値、女子大学に求められているもの)、具体的な取組みとその成果、女子大学としての発展戦略、などを把握する。(3)以上を踏まえ、女子大学の発展を目指した理論的枠組みの検討を行う。

## 3. 研究の方法

米国および韓国における女子大学でのインタビュー調査の実施・分析と、各国の女子大学及び図書館における関連資料およびデータの収集と分析を同時並行的に進める。

(1)文献・データの収集と分析：国内での文献収集の他、アメリカの議会図書館、韓国の国会図書館と国立中央図書館、及び訪問した女子大学において資料・データを収集し、それらの整理したうえ、分析を行う。

(2)インタビュー調査：米国および韓国の女子大学を訪問し、教員、職員、学生に対してインタビュー調査を実施し、女子大学としての特性とそのアピール、学生募集の取組、研究・教育の発展戦略、取り組むべき課題などに関して尋ねる。

(3)上記の成果を踏まえ、今後の社会における女子大学の取り組むべき方略を議論する。

## 4. 研究成果

(1)各国の女子大学に関するデータ収集と女子大学変遷の把握：日本、アメリカ、韓国における、WW 後の女子大学の変遷(創設、共学化、閉校など)に関するデータ、資料を収集し、まとめた。日本ではこれまでに123校の私立女子大学、2校の国立女子大学、9校の公立女子大学が存在したが、現在は私立71校、国立2校、公立2校の計75校になっている。1990年代終わりから2000年代に地方の私立大学や比較的設立年数が浅い女子大学が共学化していった。現在、実用的な学部を増設する、大学院を設けるなどして、拡充に向かう大学と、従来の規模を踏襲する大学に分かれる(『研究レポート』47号1-31頁)。また、収集したデータは、武庫川女子大学教育研究所HPの「女子大学統計」にも反映させている。

アメリカでは WW 後カソリック系の小規模女子大学の創設もあって 1960 年代には 200 校にも上ったが、その後、世俗化（第二バチカン会議）や共学化への流れなどの影響により急速に減少し、現在は 35 校程度に数を減らした。セブンシスターズと言われた北東部の名門女子大学のうち 5 校が女子大学として残り、現在も一定の地位を保っている。一般に、リベラルアーツであり、大学院拡大などは行っていない。共学化する女子大も断続的にあり、二分化している。但し、1970 年代以降については論文作成中である。（『研究レポート』46 号 83-102 頁）

韓国では、専門（短期）大学を含めると 30 の女子大学が存在したが、1980~90 年代に共学化が相次ぎ、現在は 7 校の女子大学校と、7 校の女子専門大学が存在する。それらのほとんどがソウルとその近郊に偏在している。それらの中でも梨花女子大学校は、学部生 15,000 人、院生 5,000 人を擁し、理工系、医療系、社会科学系をも合わせもつ全国有数の総合研究大学であり、他国には例を見ない独自の発展を遂げている。（『研究レポート』50 号 56-90 頁）

（2）インタビュー調査による女子大学の取組の把握：以下、大学ごとに述べる。

スミス大学 (Smith College): 2 回訪問し、教員、スタッフ、学生にインタビューを行った。

ア．スミス大学の専任講師、高橋温子氏へのインタビュー調査では、日本の女子大学出身の高橋先生の日本での経験と比較しながら、スミス大学の強みが語られた。リベラルアーツカレッジならではの教員と学生の近さと熱心な学生指導、基礎教育の充実、卒業生との関わり、教員・スタッフ・卒業生などのロールモデルの提供などが、女子大学の強みとして挙げられた。

イ．学生担当副学長のオードリー・スミス副学長に対して、学生募集の戦略について尋ねた。学生募集では、女子大学であることを強調することはなく、むしろ、卒業生を含む多世代の女性ネットワークの充実、スミス独自のハウス・システム（4 年間のキャンパスでの生活）の魅力、豊かな教育プログラムの提供、科学教育の重視、優れた設備などがアピールポイントとして語られた。大学はそれらを支える資金集めにも注力している。

ウ．上記のスミス副学長と入試担当責任者デブラ・シェーバー氏に、スミス大学がトランスジェンダー（以下、TG）学生（男性から女性）の受け入れを決定する経緯について尋ねた。TG 学生のスミスへの出願に端を発した TG 学生の女子大学への受入れ問題は、全米規模の大きな議論となった。内外の団体から受入れ圧力が強まる中、スミスにおいて学生を含む様々な立場の者が参加した議論が行われ、受入れ方針を決めるに至る。その経緯が語られた。

エ．学生部長のオートニッキー氏と学生部・住生活担当者ショー氏に、スミスにおける学生支援の方針と実際を尋ねた。学生たちはハウス (House) という小規模宿舎で 4 年間を過ごし、それらは学生の自治によって運営される。彼女らは日々の生活の中で生じる問題や課題を見つけ、協力し、相互理解を図りながら解決しており、多様な背景の人間が集まる場でのリーダー、サポーターとしての経験はコミュニケーション力を育み、卒業後の様々な場面で役立つ貴重な経験となっている。

オ．Conway Center のプログラムディレクターであるヒープロウ氏に、センターで取り組んでいる起業家 (Entrepreneurship) プログラムや金融教育プログラムの運営について尋ねた。学生の将来を見据え、実践的な経験に基づいた学習機会を提供できるよう、投資クラブなどの取り組みを 2001 年に始めた。投資クラブ等の実践的な学びや金融教育等のプログラムは、デザイン思考 (Feasibility [実現可能性], Desirability [有用性], Viability [持続可能性]) の獲得につながり、ワークショップ等のプログラム参加を通じ、今後遭遇する出来事に対する応用力、適応力を身につけている。（『研究レポート』48-50 号所収の論文と報告）

トリニティ・ワシントン大学 (Trinity Washington University): ワシントン DC に位置す

るこの女子大学は、1970年頃までは優秀な学生を集め高い評価を得ていたが、その後、大きく志願者を減らした。2000年頃から、McGuire学長の下、社会人大学院を創設する、非伝統的な女子学生にターゲットを絞りリクルートするなどして成果を挙げた。学長へのインタビューは叶わなかったが、今後、アーカイブで収集した資料、新聞等を整理・検討し、論文を作成する予定である。

梨花女子大学校：梨花女子の卒業生で、現在、広報室長を兼ねる Chun 教授に、梨花女子の強みや発展戦略について尋ねた。韓国で最も古い歴史をもつ高等教育機関であり、その歴史を通じて女子のリーダーを輩出し続けてきた歴史と自負をもち、今日もリーダーシップ教育に力を入れる。国内にとどまらず、発展途上国の女子学生や女性リーダーにもターゲットを広げ、女子リーダーシップ教育の国際化を推し進めている。また、今後の社会変化を考慮し、女性の新たな活躍分野として、工学部を設ける、文理融合した領域横断的な学部を設けるなど、積極的な展開を行っている。（『研究レポート』50号所収の2論文）

（3）今後の女子大学の発展方略に関する総合的な検討：（1）及び（2）の成果を、本科研の『研究成果報告書』（2020年3月刊行）としてまとめたが、それらの成果を踏まえて今後の女子大学の発展の方向性を提示するまでには至らなかった。大きな反省点である。ただ、その成果として、「日米における女子大学の動向と女子大学でのリーダーシップ育成の取り組み スミス・カレッジを中心に」（実践女子学園創立120周年記念公開講座／2019年7月20日）、「女子大学でのリーダーシップ育成の可能性 スミス・カレッジの事例から」（武庫川学院創立80周年記念シンポジウム／2019年10月5日）などとして報告を行った。多様なリーダーシップ教育、そのための多様なプログラム提供、学問領域を超え課題に即した実践的な学びの場の提供、女性ネットワークによる多様なモデル提示などが、今後の大きな方向として示された。その総合的なまとめは、今後の課題としたい。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計11件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 11件）

1. 著者名 ヒープロウ, R. ・西尾亜希子・安東由則（安東由則監訳）	4. 巻 50
2. 論文標題 スミス・カレッジにおける起業家活動・金融教育の取り組み：ヒープロウ氏へのインタビューから	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 研究レポート（武庫川女子大学教育研究所）	6. 最初と最後の頁 1-27
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 チョン, ジョンセル・安東由則	4. 巻 50
2. 論文標題 梨花女子大学の強み、戦略、課題：事前質問とChun教授へのインタビューから	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 研究レポート（武庫川女子大学教育研究所）	6. 最初と最後の頁 29-55
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 安東由則	4. 巻 50
2. 論文標題 韓国における女子大学の変遷と現状：全体の動向と梨花女子大学校の拡充過程	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 研究レポート（武庫川女子大学教育研究所）	6. 最初と最後の頁 57-85
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 安東由則	4. 巻 49
2. 論文標題 2017年度 スミス・カレッジ調査の目的・調査経緯とインタビューの解説 トランスジェンダー学生の受け入れを中心に	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 研究レポート（武庫川女子大学教育研究所）	6. 最初と最後の頁 1-22
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 スミス,A.・シェーパー,D.・西尾亜希子・安東由則（安東由則監訳）	4. 巻 49
2. 論文標題 スミス・カレッジにおけるトランスジェンダー学生の受け入れ議論 スミス副学長とシェイパー氏へのインタビューから	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 研究レポート（武庫川女子大学教育研究所）	6. 最初と最後の頁 23-39
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 オホートニッキー,J.・ショー,B.・西尾亜希子・安東由則（安東由則監訳）	4. 巻 49
2. 論文標題 スミス・カレッジにおける学生支援の取り組み オートニッキー氏とショー氏へのインタビューから	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 研究レポート（武庫川女子大学教育研究所）	6. 最初と最後の頁 41-62
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 安東由則	4. 巻 48
2. 論文標題 スミス・カレッジにおけるオードリー・スミス氏と高橋温子先生へのインタビュー：調査目的と手続き	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 研究レポート（武庫川女子大学教育研究所）	6. 最初と最後の頁 1-6
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 スミス,A.・安東由則	4. 巻 48
2. 論文標題 オードリー・スミス入学関連副学長（スミス・カレッジ）へのインタビュー：女子大学に関する聞き取り調査	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 研究レポート（武庫川女子大学教育研究所）	6. 最初と最後の頁 7-23
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 高橋温子・安東由則	4. 巻 48
2. 論文標題 スミス・カレッジについての高橋温子先生へのインタビュー：伝統、大学の風土、日本との比較	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 研究レポート（武庫川女子大学教育研究所）	6. 最初と最後の頁 24-54
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 安東由則	4. 巻 47
2. 論文標題 日本における女子大学70年の変遷：組織の変化を中心に	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 研究レポート	6. 最初と最後の頁 1-30
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 安東由則	4. 巻 46
2. 論文標題 アメリカにおける女子大学の動向（1）	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 研究レポート（武庫川女子大学教育研究所）	6. 最初と最後の頁 83-102
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

上記の成果を、『「女子大学の存立意義とサバイバル戦略：日本・アメリカ・韓国の国際比較（2015-2019年度科学研究費助成事業 基盤研究（C） 課題番号15K04327）」研究成果報告書』（全255頁）としてまとめ、2020年3月18日に発行した。  
この報告書には、上記論文には掲載していない、3名の韓国人女子学生へのインタビュー「韓国の教育事情と日韓の女子大学に関する聞き取り：韓国人女子留学生へのインタビューから」（233-255頁）を所収している。

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----